

	27	夜の過ごし方
	28	イメージと異なっていたもの
	29	渡嘉敷島で良かったこと、悪かったこと
	30	渡嘉敷島の美化の印象
	31	渡嘉敷島の自然景観の印象
	32	渡嘉敷島で使った費用
	33	その他気がついたこと
	34	満足度
	35	危機管理
	36	渡嘉敷島への再来訪

(3) 調査結果

別紙「アンケート結果資料」参照

3. 本業務について

3-1 総評

昨年度よりも県外イベント数の出展が減少した。渡嘉敷の認知度については、北海道旅行博、アンケートの結果によると10%程度昨年度よりも減少した。これは県外イベントの数が減ったことにより、北海道の占める割合があがったことが要因ではないかと考えられるが、引き続き検証が必要である。渡嘉敷島の認知経路としては、今までの「旅行誌・ガイドブック」を抜いて、「イベントで知った」が20.8%と最も多かった。沖縄で開催された離島フェアで実施したアンケートでは、渡嘉敷島への旅行日程として1泊2日が多く、45.0%。県内旅行客は宿泊客が多いのではないかと感じた。

今年のイベントの変更点としては、今までもOCVB同行だけではなく、渡嘉敷の誘客ターゲット・目的にあった、渡嘉敷独自のイベント出展について検討されてきたが、今年度は青森県弘前市の百貨店イベントへの出展にチャレンジすることができた。アンケート実施できていないが、渡嘉敷をまだ知らないが興味を持っている方が多い印象を受けた。今後もこういった新しいチャレンジをしていく必要があると思った。

3-2 今後の課題

(1) 参加するイベントの情報・準備について

今年に限定した事ではないが、出展するイベントの情報をもっと早く知り、イ

イベントで実施する PR 企画の内容など、もっと工夫を凝らしていくことが重要だと思う。現在イベントによっては、来場した子供たちなどに対して、貝殻ストラップのワークショップを実施している。好評ではあるが、完成までに 15 分程度かかり、多くの人に体験してもらえるかという点でいうと疑問がある。イベントによってはもっと時間がかからずに渡嘉敷に親しんでもらえるようなワークショップを検討したほうがよいように感じた。

(2) ツールの費用対効果について

昨年度に引き続き、観光プロモーションツール類について検討しているが、大きなイベント会場ではばらまく用のツールと、もう少し突っ込んで説明できる時の説明用ツールを分けている。特に後半はばら撒きツールについては数を減らしている。今後は電子ツールや、SNS のより積極的な活用など、紙媒体からの離脱をどう進めていくかが課題。一方で現在の紙のガイドブックや MAP、ポストカードやうちわなどについては、お客さんに渡した時の反応も良いことも事実である。お客さんがそこまでツールの電子化を求めているのか、求めているとしたらどのツールで、いつ、どのように利用したいのか、引き続き検証していく必要がある。

2) 渡嘉敷村観光受入体制整備

業務完了報告

1. 本業務について

1-1 本業務の目的

渡嘉敷島を訪れる国内外からの観光客が、より快適で安全に渡嘉敷島での観光を楽しめるよう、またそれが島民の生活を脅かすことがないよう、島内事業者・島民の声を反映した受入施策を推進する。

1-2 本業務の実施期間

令和元年5月16日から令和2年3月13日まで

1-3 本業務の実施概要

□観光受入体制整備業務

具体的事業内容としては、渡嘉敷村のメインビーチである「阿波連ビーチ」に注意喚起看板を制作し、合計4台の看板を制作設置した。看板を制作する上で、周辺の観光関連事業者にヒアリングを実施し、現在事業者間で認識に差がある問題を洗い出し、共通の認識を持つための話し合いの場として「阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議」を年3回開催した。また、年々増加している訪日観光客のニーズに応えられるよう、観光関連事業者むけの多言語セミナー（英語・中国語）を実施し、受入体制の整備に取り組んだ。

2. 本業務の実施内容

2-1 阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議

（1）企画運営

今年度阿波連ビーチの利用における注意喚起・ルール・マナーを、ビーチを利用する観光客の皆様にはわかりやすく、また、明確に示すことで渡嘉敷での旅を安心・安全に満喫していただく目的で、阿波連ビーチに注意喚起看板を制作した。この看板制作をする上で、事前に周辺観光関連事業者の皆様と共に、遊泳ルールの再確認と、受け入れ態勢の強化を図るため、阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議を開催した。全三回の会議の間に、不参加の事業者の元を回り、情報の伝達とヒアリングを徹底した。

① 第一回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議

・開催日時

2019年8月27日（火）19：00～20：30

・開催場所

阿波連生活館

・参加者（敬称略）

玉城（観光産業課長）、尾崎（観光産業課課長補佐）、
赤嶺（観光産業課課長補佐）

慶良間自然保護官事務所：松本 三石

事業者：国吉真之介、金城肇

事務局：IM パートナース 伊古、株式会社ルーモス 溝江
（計9名）

・内容

別紙「第一回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議
議事録」参照

・開催風景



・参加者アンケート

Q1. 本日の事業説明会について

No	項目	人数	構成比
1	参加してよかった	2	100.0%
2	どちらでもない	0	0.0%
3	参加しなければよかった	0	0.0%
	合計	2	100%

Q2. 「参加しなければよかった」理由について

No	項目	人数	構成比
1	議論に参加できなかった	0	0.0%
2	内容に興味がなかった	0	0.0%
3	内容に不満があった	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
	合計	0	0.0%

Q3. 次回会議について、進め方や開催時期・時間のご要望

No	項目	人数	構成比
1	今の時期が良い（多数のお客さんが来ている時期）	1	50.0%
2	多数の人を集めてほしい	1	50.0%
	合計	2	100.0%

Q4. その他お気づきの点

No	項目	人数
1	厳しくいうと、地域住民事業所が共通でお客様へ地元ルールをお伝えできればいい。他事業者にも参加してほしい。	1
	合計	1

・第一回会議後ヒアリング風景



② 第二回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議

・開催日時

2019年12月2日（月）19：00～20：30

・開催場所

阿波連生活館

・参加者（敬称略）

玉城（観光産業課長）、尾崎（観光産業課課長補佐）
 事業者：国吉真之介、金城肇、仲里安弘、荻堂宏也、
 富濱大樹、富濱大輔、関根史郎

事務局：IM パートナース 伊古

（計 10 名）

・内容

別紙「第二回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議
 議事録」参照

・開催風景



・参加者アンケート

Q1. 本日の事業説明会について

No	項目	人数	構成比
1	参加してよかった	5	71.4%
2	どちらでもない	2	28.6%
3	参加しなければよかった	0	0.0%
	合計	7	100%

Q2. 「参加しなければよかった」理由について

No	項目	人数	構成比
1	議論に参加できなかった	0	0.0%
2	内容に興味がなかった	0	0.0%
3	内容に不満があった	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
	合計	0	0.0%

Q3. 次回会議について、進め方や開催時期・時間のご要望

No	項目	人数	構成比
1	ルール作りから必要性があるので 出席者、情報を集めましょう	1	20.0%
2	特になし	1	20.0%
3	遊泳監視区域、遊泳区域、遊泳禁止区域の定義とか	1	20.0%
4	他ビーチ利用業者、宿泊業者、レンタル業者を参加させて意見を反映させてほしいです。	1	20.0%
5	次回期待します	1	20.0%
	合計	5	100.0%

Q4. その他お気づきの点

No	項目	人数
1	いい話し合いだったと思います	1
2	看板の大きさ。周囲の宿泊ビーチ利用者への周知のため、監視塔下に設置してほしいです。台風時撤去可	1
	合計	2

・第二回会議後ヒアリング風景



③ 第三回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議

・開催日時

2020年1月17日（金） 19:00-20:30

・開催場所

阿波連生活館

・参加者（敬称略）

玉城（観光産業課長）、尾崎（観光産業課課長補佐）、
松本 晃（慶良間自然保護官事務所）

事業者：宮里 勇輝、平田 春生、国吉 真乃助、金城 肇、
富濱 大輔、仲里 安弘、荻堂 宏也、大城 秀人、
番田 武六、国吉 晴大、野勢 富子、白須賀 潤、

樽部 拓也、比嘉 亜由美

事務局：IM パートナース 伊古、株式会社ルーモス 溝江

(計 19 名)

・ 内容

別紙「第三回阿波連ビーチ注意喚起看板制作会議議事録」参照

・ 開催風景



・ 参加者アンケート

Q1. 本日の事業説明会について

No	項目	人数	構成比
1	参加してよかった	10	100.0%
2	どちらでもない	0	0.0%
3	参加しなければよかった	0	0.0%
	合計	10	100%

Q2. 「参加しなければよかった」理由について

No	項目	人数	構成比
1	議論に参加できなかった	0	0.0%
2	内容に興味がなかった	0	0.0%
3	内容に不満があった	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
	合計	0	0.0%

Q3. 次回会議について、進め方や開催時期・時間のご要望

No	項目	人数	構成比
1	色々な意見が聞けてよかった	2	40.0%
2	ヤジが多いので長く話したりキレる方に対して冷静に話をするようにしてほしい。	1	20.0%
3	国立公園内のビーチの楽しみ方においても自然保護と安全を天秤にかけて制限することの意味をテーマにしてもよいのではと思います。最終的にかけがえのない自然保護の精神が郷土を守ると思います。	1	20.0%
4	次回からは初回から多数の参加があるよう働きをかけてほしい	1	20.0%
	合計	5	100.0%

Q4. その他お気づきの点

なし

2-2 阿波連ビーチ注意喚起看板 制作設置

今年度阿波連ビーチの利用における注意喚起・ルール・マナーを、ビーチを利用する観光客の皆様にはわかりやすく、また、明確に示すことで渡嘉敷での旅を安心・安全に満喫していただくため注意喚起看板を4基（大サイン1基、小サイン3基）制作・設置した。

（1）制作データ

大サイン

阿波連ビーチのルール Rules of Aharen Beach 阿波連海灘規定 아하렌 비치의 규칙

caution 当ビーチにお客も含めては**利用者の自己責任**となります。他の利用者の迷惑にならないように、ルールを守って安全にお楽しみ下さい。 We accept no liability whatsoever for the actions and behavior of visitors to this beach. We ask that you follow the rules and enjoy yourself safely so not to disturb other visitors. 有犯本海灘之一切自由利用者自行負責。請遵守規定。安全遊玩。切勿造成他人困擾。 이 해수욕장에서 일어나는 모든 일은 물론 이용자 본인에게 있습니다. 다른 이용자에게 불편을 주지 않도록 규칙을 지키며 안전하게 즐겨주세요.

事故防止のため、監視員の指示には従うこと。 Follow the instructions of the lifeguard to prevent accidents. 为防止意外發生，請遵照監視員的指示。 사고 방지를 위해監視원의 지시에 따를 것.

安全に楽しむため泳域区域を守ること。 Observe the swimming area to enjoy yourself safely. 为能安全遊玩，請遵守游泳區域的規範。 안전하게 즐기기를 위해 수영 구역을 벗어나지 말 것.

小さなお子様の遊泳には必ず保護者が同伴すること。 Guardians must accompany small children when swimming. 小朋友游泳時務必有家長陪同。 어린 아이가 수영할 때는 반드시 보호자를 동반할 것.

遊泳監視区域内でシュノーケリングをする際はライフジャケットを必ず着用すること。 You must wear a lifejacket when snorkeling in the swimming surveillance area. 在游泳監視區域內浮潛時，務必穿上救生衣。 수영 감시 구역 내에서 스노클링을 할 때는 구명조끼를 반드시 착용할 것.

少量でもお酒を飲んだ状態で海に入らないこと。 If you have consumed any alcohol whatsoever, you must not enter the water under any circumstances. 即便只喝了一點酒也切勿下水。 소량이라도 술을 마신 상태로 바다에 들어가지 말 것.

自分で出したゴミは持ち帰ること。 Take home any trash that belongs to you. 自己のゴミを持ち帰りましょう。 해변/해변에서 쓰레기를 가져가세요.

サンゴの上には立たないこと。 Do not stand on the coral. 珊瑚礁に立ち上がらないこと. 산호 위에 올라가지 마세요.

動物等をとったり、傷つけたりしないこと。 Do not catch any animals or plants. 動物等を採取하거나, 상처를 주지 마세요. 동물을 잡거나, 식물 등을 건드리지 마세요.

ビーチ内でタバコは吸わないこと。 Do not smoke on the beach. 해변/해변에서 흡연을 하지 마세요.

ゴミをゴミ箱に入れてください。 Do not throw any trash in the beach. 쓰레기를 쓰레기통에 넣어주세요. 해변/해변에서 쓰레기를 버리지 마세요.

海の生物に触りけしないこと。 Do not touch any sea life. 해양생물을 만지지 마세요. 해변/해변에서 만지지 마세요.

遊泳監視期間 Swimming Surveillance Period 遊泳監視期間 9時～18時
海開き (4月中旬) ～10月31日 Beach Opening (middle of April) to October 31
遊泳監視時間 (4月中旬) ～10月31日 해수욕장 개장(4월 중순)～10월 31일
遊泳監視時間 Swimming Surveillance Time 遊泳監視時間 9時～18時

SOS 救急・消防 119 海上保安庁 118 警察 110

小サイン

近年増加している外国人観光客への、顧客対応を円滑に行うための補助施策として前年度好評だった事業者向け多言語受入セミナーを実施した。セミナーは英語・中国語を同時開催で実施し、参加できる事業者が増える様同日2回開催とした。

① 開催日時

第一回 令和元年6月28日(金) 14:00-15:30
19:30-21:00

<島内掲示チラシ>

渡嘉敷村
第一回観光事業者向け多言語セミナー

渡嘉敷村観光産業課では、年々増え続けている外国人観光客に対する対応能力向上を目的とした受入支援を行っております。その一つとして、村内の観光に携わる事業者様に対して、多言語セミナーを平成29年度より実施しております。
ご来場中に「こんな時にどう伝えたいの?」という場面に合わせて、伝え方を確認し、実演に外国人講師の先生を相手に練習ができる機会です。
当日はフリー質疑タイムも設けますので、講師の先生に聞きたい疑問もご準備ください!
村内の観光事業者様のご参加をお待ちしております!

日時 2019年6月28日(金)

1回目 14:00~15:30
2回目 19:30~21:00

場所 阿波連生活館

対象 村内観光関連事業者の皆様

セミナー内容

1.英語 基本接客トークの確認
2.中国語(北京語) 基本接客トークの確認
3.実演練習(英語・中国語)



事前予約は
必要ありません。
参加は無料!

問合せ先(受託事業者)
株式会社ルーモス
鹿児島市桜島274番地201号室
電話: 098-943-8330
メール: kusanai.asahi@lunos.com.co
担当: 豊田

令和元年6月14日
渡嘉敷村 観光産業課

第二回 令和元年11月8日(金) 14:00-15:30
19:00-20:30

<島内掲示チラシ>

渡嘉敷村
第二回観光事業者向け多言語セミナー

前回は急な日程変更により、大変ご迷惑をおかけいたしました。

渡嘉敷村観光産業課では、年々増え続けている外国人観光客に対する満足度向上を目的とした受入支援を行っております。

その一つとして、村内の観光に関わる事業者様に対して多言語セミナーを実施しております。ご報告中に「こんな時にどう伝えたいの？」とお困りのことに対して、講師の先生が丁寧に指導してくれる、大変満足度の高いセミナーです！

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 令和元年 11 月 8 日（金）

1 回目 14：00～15：30

2 回目 19：00～20：30

場所 阿波連生活館

対象 村内観光関連事業者の皆様

セミナー内容
 1.英語 基本トーク
 2.中国語 基本トーク
 3.フリータイム（英語）

事前予約は
必要ありません。
参加は無料！




問合せ先（受託事業者）

株式会社ルニス

沖縄県読谷郡読谷 2-33-7-701

電話：098-943-8330

Eメール：kusama.asako@lunis.com.co

担当：早見、伊古、海江

令和元年 10 月 2 9 日
 渡嘉敷村 観光産業課

- ② 場所
阿波連生活館
- ③ 参加者

第一回参加者名簿

No.	氏名	所属団体・会社名	備考欄
1	宮平 雅己	渡嘉敷村船舶課	19：30～
2	中村 めぐ美	アロハレンタ企画	14：00～
3	山城 雄翼	かりゆしレンタサービス	14：00～

第二回参加者名簿

No.	氏名	所属団体・会社名	備考欄
1	富里 常男		14：00～
2	川島 由梨	とかしくマリンビレッジ	14：00～
3	嶋田 美貴	ケラマバックパッカーズ	14：00～
4	坂田 明子	わらびや	14：00～

5	中村 めぐ美	アロハレンタ企画	14:00～
6	宮平 雅己	船舶課	19:00～
7	金城 肇	民宿 ゆうなぎ荘	19:00～

④ 実施風景



⑤ 実施アンケート結果

第一回

1. 本日のセミナーについて

No	項目	人数	構成比
1	参加してよかった	3	100.0%
2	どちらでもない	0	0.0%
3	参加しなければよかった	0	0.0%
	合計	3	100%

2. 問1にて「参加しなければよかった」を選択されたかたにお伺いします。

No	項目	人数	構成比
1	参加できなかった	0	0.0%
2	内容に興味がなかった	0	0.0%
3	内容に不満があった	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
	合計	0	0.0%

3. 次回多言語セミナーの内容について、どのような会話の練習をしたいと思いますか？

No	項目	人数	構成比
1	チェックイン／最初のご案内	0	0.0%
2	会計時	0	0.0%
3	道案内	0	0.0%
4	その他	2	100.0%
	合計	2	100.0%

その他は、「説明する時、話せるように単語の勉強をしたい。」、「日常的な会話をもっと勉強したいです。」だった。

4. その他、お気づきの点、ご意見等あれば以下にご記入ください。

No	項目	人数
1	いつもありがとうございます。	1
2	いつも楽しいです。ありがとうございます。次回もよろしくお願いします。	1
	合計	2

第二回

1. 本日のセミナーについて

No	項目	人数	構成比
1	参加してよかった	6	100.0%
2	どちらでもない	0	0.0%
3	参加しなければよかった	0	0.0%
	合計	6	100%

2. 問1にて「参加しなければよかった」を選択されたかたにお伺いします。

No	項目	人数	構成比
1	参加できなかった	0	0.0%
2	内容に興味がなかった	0	0.0%
3	内容に不満があった	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
	合計	0	0.0%

3. 次回多言語セミナーの内容について、どのような会話の練習をしたいと思いますか？

No	項目	人数	構成比
1	チェックイン／最初のご案内	0	0.0%
2	会計時	1	33.3%
3	マナー説明	0	0.0%
4	道案内	0	0.0%
5	その他	2	66.7%
	合計	3	100.0%

その他は、「1・2・3・4・すべて。」「日常的な会話をもっと勉強したいです。（挨拶、入店からのやりとり）」だった。

4. その他、お気づきの点、ご意見等あれば以下にご記入ください。

No	項目	人数
1	開催地にあった方法（言語）を学ばせてください	1
2	中国語の時間は私に必要ないので、もっと英語がやりたい。発音ばかりではなく、次回は翻訳をやりたい。	1
3	続けてほしいです。	1
	合計	3

3. 本業務について

3-1 総評

阿波連ビーチ注意喚起看板会議の企画運営においては、全3回の会議に来られなかった事業者に対して、どのように会議で話し合われたことを伝達し、不参加の人の意見をどのように吸い上げるのかを特に工夫した。呼びかけをして、来ない人については仕方ない、ということではなく、来なかった方にも都度ヒアリングに回った。一部の事業者さんからは「忙しくて参加できない事業者の声を無視

するのではなく、こうやって回ってきてくれるから助かる」といった声もあった。また、会議などではなかなか自分の意見を伝えづらいと感じている事業者さんも少なからずおり、匿名で会議中にこんな意見もあったという報告をしたことで、そのような声も拾い上げることができた。参加者からも「ぜひ継続してほしい」という声もあり、今後同様の会議を開催する際に今回の進め方を参考にできると感じた。

多言語セミナーについては、例年事業者さんが参加しやすいよう、一番忙しい時期の開催を避け、年前半の実施は控えていたが、オフシーズンに入るにつれ、シーズンバイトの方などが去り、その時期に開催しても人がいないという課題点もあった。このため、6月末開催を今年は実施したが、参加者3名という結果。次年度以降実施する場合は、さらに時期を早めて6月前半に開催したほうがいい。参加者の満足度は大変高いセミナーだが、毎回参加者数に課題がある。実施の要否も含めて次年度以降検討が必要。

3-2 今後の課題

(1) 観光施策について事業者・島民の声を吸い上げるための話し合いの継続実施

今年度は「阿波連ビーチ注意喚起看板の制作」ということで、周辺事業者の声を吸い上げ、遊泳ルールについて共通の認識を持つための会議を開催した。参加者からはおおむね好意的な声をいただけた。さらに今後継続実施してほしいという要望もあった。皆様の生活に直結する観光関連の施策に関する話し合い、意見収集等、今後は住民・周辺事業者をもっと巻き込んで実施する必要がある。

特に今回阿波連ビーチにおける遊泳ルールについて話し合いを持ったが、「渡嘉志久ビーチではやらないのか」、「ハナリでの遊泳に対しても遊泳ルールの整備が必要ではないか」という声があった。

(2) 今後取り組んでほしい観光施策のヒアリング・実態調査について

今後観光産業課が取り組む観光関連施策について、村民の声を広く収集する必要があると感じた。事業者や住民が考える渡嘉敷村の観光課題について、必要な実態調査を迅速に実施し、問題を引き起こしている要因が特定でき次第、対策を実施する、一連のプロセスをよりスピーディに実施することが望まれている。これを実現するために必要なことのひとつとして、官民の連携をさらに活発にする必要があると感じた。